

第3回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和元年8月8日（木）
開 会：13時30分
閉 会：14時45分
2. 開催場所 庄原市役所 5階 第3委員会室
3. 出席委員 石川芳秀 委員（委員長） ・ 清水孝清 委員（副委員長）
若林隆志 委員 ・ 水戸美代子 委員 ・ 檀上理恵 委員
4. 欠席委員 名越圭佑 委員 ・ 箕越美紀子 委員
5. 出席職員

総務部	行政管理課	広報統計係長	麻田英志
生活福祉部	高齢者福祉課長		毛利久子
生活福祉部	高齢者福祉課	高齢者福祉係長	田邊秀美
生活福祉部	高齢者福祉課	高齢者福祉係	石田智久
生活福祉部	保健医療課長		伊吹讓基
生活福祉部	保健医療課	健康推進係長	清水めぐみ
企画振興部	観光振興課長		定光浩二
企画振興部	観光振興課	観光振興係長	糸原秀晴
環境建設部	環境政策課長		若林健次
環境建設部	環境政策課	環境政策係長	川東正憲
総務部	行政管理課長		加藤武徳
総務部	行政管理課	行政管理係長	下森一克
総務部	行政管理課	行政管理係	小林裕美
6. 傍聴者 なし
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第3回庄原市行政評価委員会次第

令和元年8月8日(木) 13:30 から
庄原市役所 5階第3委員会室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3-5. 評価対象事業の説明

(1) ふるさと応援団事業 資料4

(2) 高齢者世帯雪下ろし支援事業補助金 資料5

4-3. 総括意見の集約

(1) 出前トーク事業 資料1

(2) 飲料水供給施設整備費補助金 資料2

5-4. 評価意見の検討

・ 歯周病検診事業 資料3

6. その他

7. 閉 会

会 議 経 過

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

お忙しい中、ご出席をいただきありがとうございます。本日は2名の方が欠席でございます。5名の皆様のご協力をいただきながら、本日の議事を進行してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3. 評価対象事業の説明

－ 事務局都合により、次第5を先にさせていただくことで了承 －

(1) ふるさと応援団事業

－ 事務局より資料説明 －

委員 要綱に個人、団体及び企業とあるが、「団員数」には何人とある。

これは企業・団体でも入れるのか？

事務局 現状は、企業・団体が無い。本来は企業も登録可能。

委員 所管課課題として「団員の拡大」とあるが、先ほど説明のあったホームページ、成人式等でのパンフレット配布等以外の活動は。

事務局 H27年度に始まった際には、高校の同窓会通信や他都市で行われる出身者の会等へも広く配布させていただいた。市職員へもメール等で呼びかけをしている。

委員 目標人数は。

事務局 H27年度当初は300人程度を目標。この事業開始のきっかけとなったのが、庄原出身の会から、「何かできることはないか。団員証的なものがあれば活動しやすい。」という声があったことから始まった。出身者の会に、色々と通知はしているが、思ったほど会員数は伸びていないのが現状。少しずつ伸びているのは、ふるさと納税された方に、案内して入っていただいている状況。

委員 応援寄附金1,969件、3,000万円余りの成果と、93人の団員との関係は把握しているか。

事務局 把握していない。寄附をされた方が、その後、応援団に入っていたという流れはわかるが、正確な人数は把握していない。

委員 出身者の方からの声によりH27年度から実施。前から市の中で計画していた事と合致したのか。

パンフレットがあるが、ニューズレターは筆文字状で、どの年齢層・どういった方をターゲットにしているのか、どう育てていこうとしているのかが分かりにくいといったことがあった。

事前にどのくらい練られて、始めた事業なのか。

事務局 筆文字のチラシについては、内部でも話に上がったが、「応援団」風な筆文字に

したデザイナーの考えと、ターゲットとした年齢層にマッチしたものになっていたかという点、ご指摘いただいたように検討していかなければならないところもあったかと思う。

ターゲットは、「幅広く」ではあるが、デザインの工夫はしていきたいと考えている。

今後は、庄原市の地域振興、内部だけで解決するのではなく、いかに庄原市出身者・ゆかりのある方、といった市外の方からいかに協力を得ながら地域振興を図っていくことが必要と考える。

そのために、会報誌、ホームページ等でPRしているが、ふるさと納税だけでなく、現在庄原市でこんなことで困っていて、外の方の力が欲しいといったことをもっと、具体的・積極的に支援をお願いしていくことも必要かと考えている。

委員 ホームページを見るに、出身者だけでなく、特産品のファンの方などが団員に登録されているようだが、出身者とそれ以外の方の比率はどのくらいか。

映画やドラマや漫画などで多少なりともロケ撮影に使われた場所や舞台になった場所があるが、そこを利用する検討はあるか。

高校卒業後、進学や就職で県外に出た際に、誇りを持って出身地を言う事ができるだろうか。

事務局 出身比率は約半分が、広島県内の方。出身者が一番多い。その次がゆかりの方。詳細は、後日情報提供する。

委員 所管課の「拡充」について、具体案を持っているか。

事務局 観光だけでなく、定住分野等とも連携していきたい。

委員 ① 1,096 件の寄附金。同一人物はどのようにカウントされるのか（延べ数か）。同じ方が何回もすることがあるか。

② 3,000 万円余りの寄附金は、指定寄附が多いのか。

事務局 ① 財政課数値のため、後日報告。

② 寄附の際に、何に使って欲しいか、もしくは指定しないか等の項目があり、チェックしていただくようになっている。どの分野に何円の寄附金があったかの集計は行っているので、次回提出する。

委員 PRの仕方にも反映できるので、データが欲しい。

寄附者＝応援団 になっていただくシステムにはなっていないということではなかったか。

事務局 そのようなシステムにはなっていない。

委員 他市町の状況について。

事務局 立ち上げの際に調べた他市町の状況は、かなり多くの取り組みをされている。その際に伺った話しによると、会員数がかかなり増えて、それ自体はとても良い事であるが、例えば、会報誌を送付するといった経費がかかなりかさんでしまう。その自治体では、脱退の意思がある方のみ脱退の形をとられていたので、どんどん会員数が膨らんで、支援も受けられたがコストも増えてしまっている状況があった。

そのため、庄原市は1年更新という形で厳密に、毎年更新していただいたが、この作業に手間がかかるということがあり、更新のたびに団員数が減ることになっていた。今回ご説明させていただいたように、確認は行うが、手続きを簡素化した。

例えば、岐阜県の飛騨市は、楽天カードと団員カードを兼用されていて、ポイントが貯まるという特典があり、検証を重ねていきたいと考えている。

(2) 高齢者世帯雪下ろし支援事業補助金

－ 事務局より資料説明 －

委員 雪下ろしができる業者は、事前登録制度か。

事務局 登録制度ではない。

委員 例えば、口和でお願いしても、屋根に上がることが難しい。業者がいないことへの対応はしているか。

事務局 人材不足への対応は、特には行っていない。

4. 総括意見の集約

(1) 出前トーク事業

総括意見	評価：拡充
<p>市民ニーズ・満足度が高く、また、当該事業実施により、行政と市民の距離が近づき、市民のまちづくりへの参画・協働の機会を増やすことが期待できる、必要性の高い事業である。</p> <p>特定の地域、年代、団体に偏りがあることから、より市民に分かりやすく、幅広く情報を届けるための手法について、考察されたい。</p> <ul style="list-style-type: none">① 項目が多いのは良い事ではあるが、告知の文字が小さい。② 今現在多くの関心や興味を持たれているであろう話題に的を絞る等、検討されたい。③ 学校行事・地域行事等で集まりの多い土・日曜日の開催について検討されたい。	

委員 支所から地域へ出て行って、住民と話をする回数を増やせば、ニーズ等、よく分かって、広がっていくと思う。

(2) 飲料水供給施設整備費補助金

総括意見	評価：拡充
<p>「この地域で生活する」、さらには、「この地域で生活しようとする」全ての人にとって飲料水の確保は、最も重要な生活基盤の一つであり、給水区域対象外が広範囲に存在する庄原市においては、必要な事業であると考えられる。</p> <p>なお、飲料水供給施設整備にかかる初期投資は一律でなく、また、飲料水検査「不適」となることもあるため、過去の実績を考察し、負担感の均衡を図るためにも補助額の上限を上げる等、検討されたい。</p>	

5. 評価意見の検討

・歯周病検診事業

－ 事務局より資料説明 －

委員 【①拡充】の意見

噛むことは健康づくりの第一歩と言われてきました。歯周病がもたらす健康への影響はかなり大きいものがあるとのデータもあり、健康増進法に基づく対象年齢 40, 50, 60, 70 歳まで引き上げるのが適当と思います。医療機関の協力が得られれば対象年齢を拡大することも検討してほしい。

委員 【②拡充】の意見

本事業は県内でも本市の受診率が比較的高く、より効果的な事業と思慮する。そうした中で、歯周病の影響は大きいものがあることから、受診対象を広げることにより、より効果があるものと思える。対象節目年齢を単に増やすことより、50歳代を加入することで、より集中した形態とすることが効果を大きくするものと思われる。

委員 【③拡充】の意見

歯周病が全身に及ぼす影響が大であり、様々な病気を誘発する可能性がある事が担当課の説明で理解出来た。40歳を越えると歯の老化は急進し、10年毎の節目検診では間に合わない気がする。市立西城市民病院では定期健康診断（年1回）と合わせて、歯科の検診も勧めており多くの市民が利用すれば良いと思う。

事業主は、社員に年1回の健診を義務付けられており、我が社は、庄原市唯一の西城市民病院で実施している。この健診において、強制ではないが、歯周病も含めた歯科検診を誘導している。基礎健診を診てもらった後で、かかりつけ医に診断書を持っていくといった流れをつくっていくのは良いと思う。

出前トークの活用もよいのでは。

委員 【④拡充】の意見

他市と比較して、対象節目年齢が少ない状態である。健康づくりや疾病予防のためには、有益な事業と考え拡充すべきと思われる。

委員 【⑤ 拡充】の意見

所管課評価のとおり、対象年齢の拡充、及び受診率の向上は今後の健康づくり、疾病予防のために必要と考えます。

受診率向上について、「歯科医院」での待ち時間が問題ではないでしょうか。そのため受診者が、診察をためらわれているのでは？例えば「歯周病検査の日」を設定し、「時間指定」をすることなどの工夫により多くの方の受診が見込まれるのでは・・・。

もちろん、一般的な「歯周病の怖さの周知」が大切なことは言うまでもありません。

いかに「行ってもらおうか」というのは難しい。

歯周病の怖さをまったく知らない年代への周知は大切と考える。

委員 【⑥ その他の見直し】の意見

実施対象の年齢を広げることも一案だとは思いますが、それだけではなく、「自分の健康は自分で守る」ことの大切さをメッセージとして発信すると良いと思います。例えば、検診を受けた後、「どうしたら良いか」の相談窓口がないと、結局事業も生かされない。「病院に行って、検診を受ければ医師が治してくれる」わけではないのですから、検診事業単体ではなく、総合的な「市民の健康づくり」をどうしていくのか…という視野の中で、事業を実施してほしいです。

ただ歯周病にならないために対象年齢を広げるというのではなく、トータルに健康に長生きしましょうということがベースにあった上で、実施すべきと思う。

委員 【⑦ 拡充】の意見

歯周病に対しての意識向上のために、対象年齢の拡大は必要。40歳からではなく、30代からの意識づけも必要と思う。

学校を卒業後、歯科自体が遠のいた存在になっている感がある。

— 総括意見 —

委員長 「拡充」とする。

6. その他

事務局 (次回会議までの資料提出及び、会議内容の説明)

7. 閉 会